

# 千住百面町

この計画は今現在住んでいる人たちが引き金となって始まる。

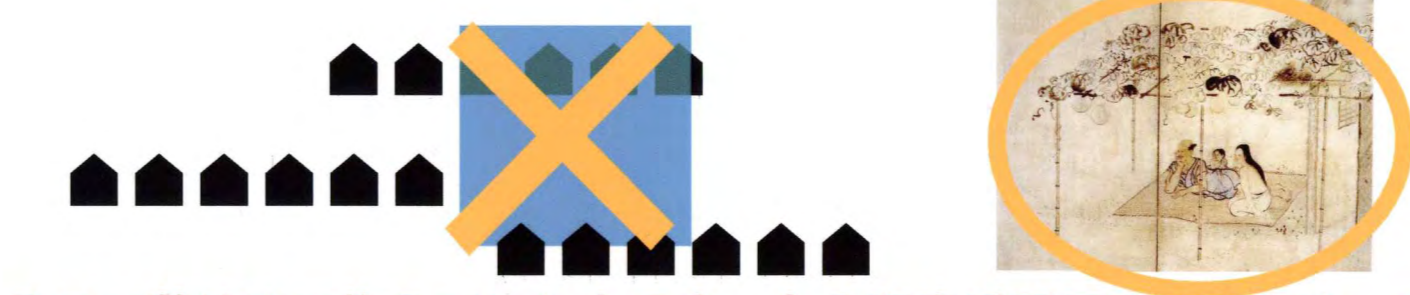
## コンセプト

現在の地に住んでいる人の大半はこの地で半生を過ごしてきた人たちである。若い頃は互いに関係を持っていたが徐々に家にこもっていったこの町の歴史を体感している人々である。徐々に歳を取り、最近では時間に余裕が出てきた。昔のように隣の奥さんと酒でものみなない。



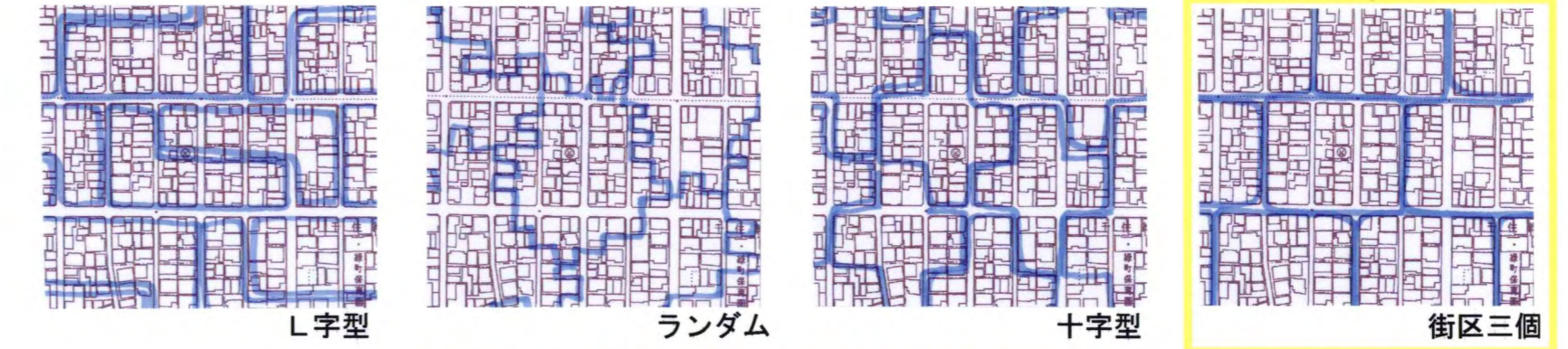
しかし現実には全てを抱え込んだ建物がこの夢を阻む。なんかりづらいうな、気持ちすかしいような、わざわざそんなことしなくても思ってた家でぼんやりと。

こんな彼らが求めているのは大きな公共施設でもなく老人ホームでもなく、町に埋め込まれたかつての井戸のようなものである。

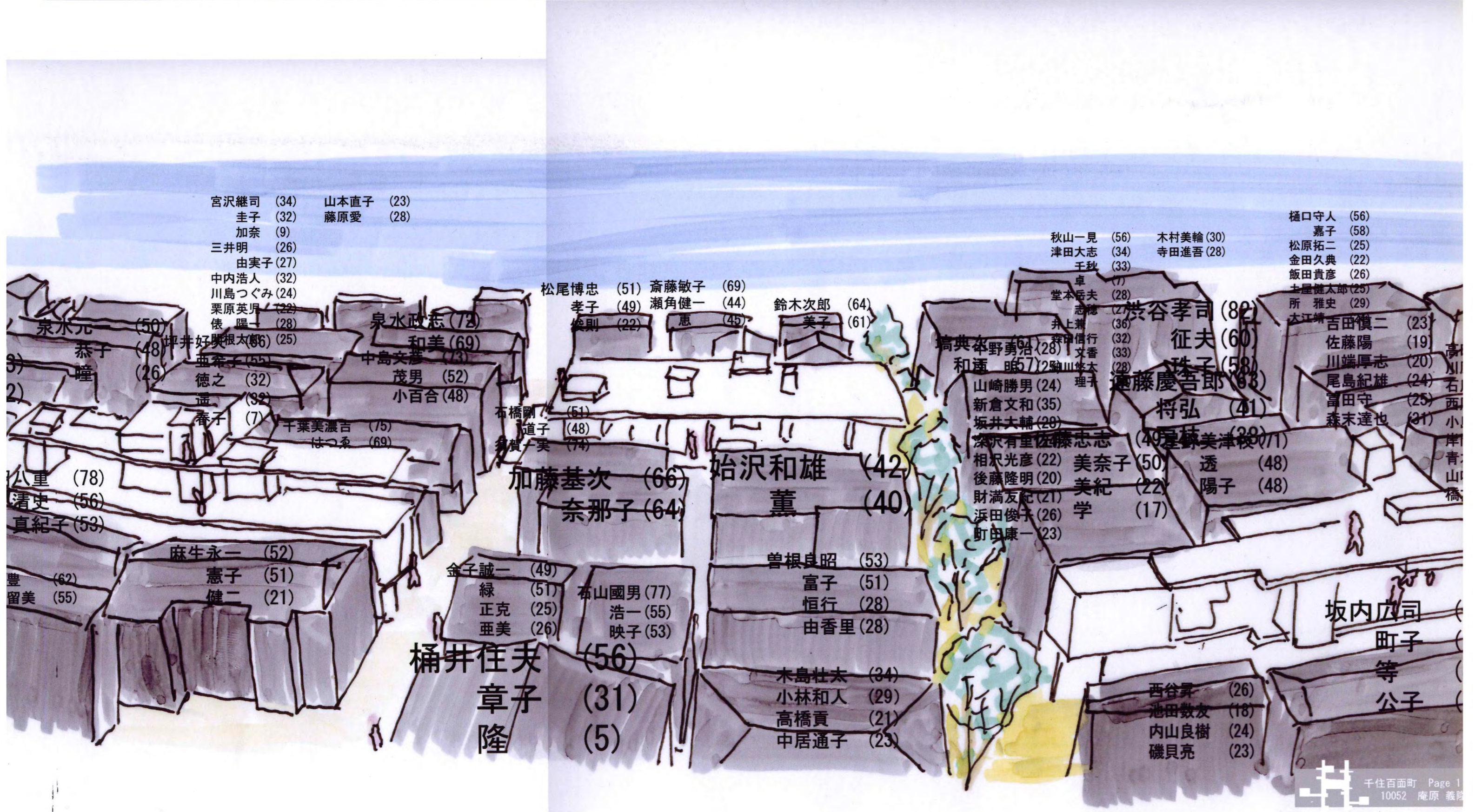
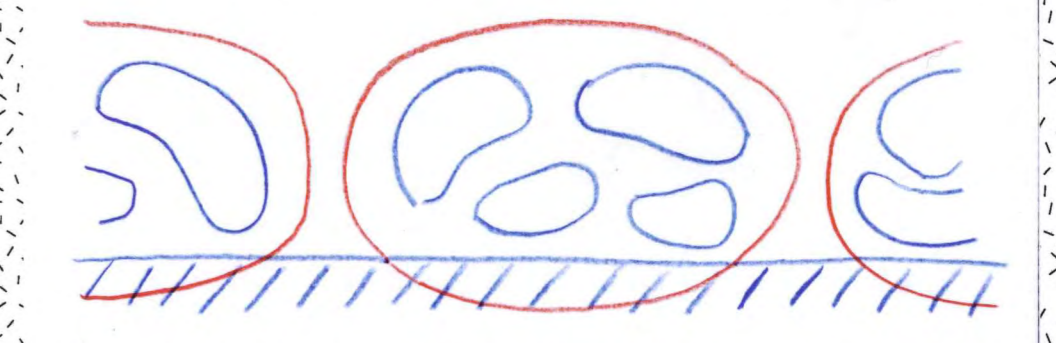
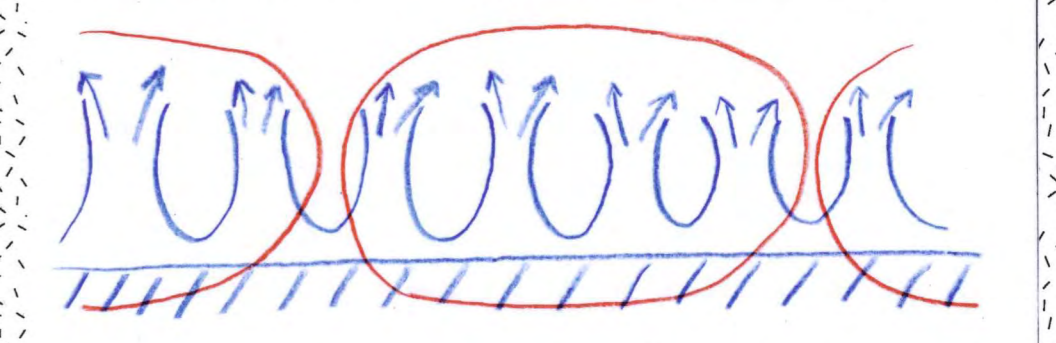
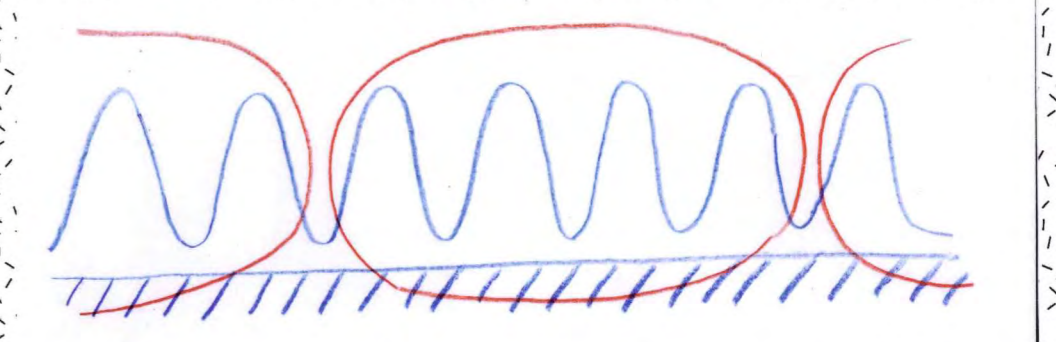
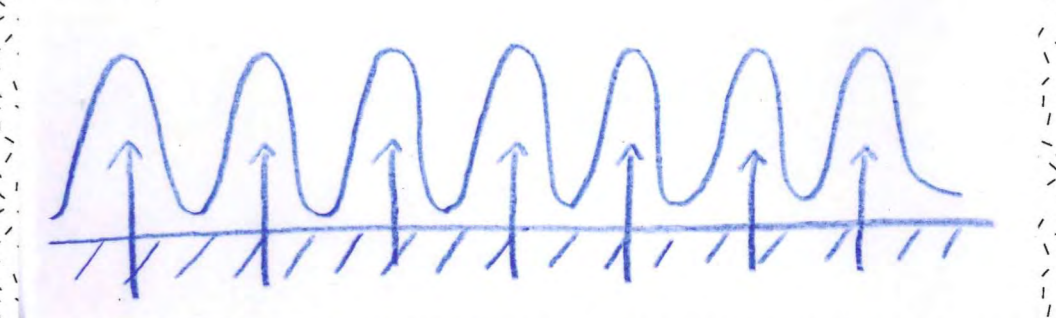
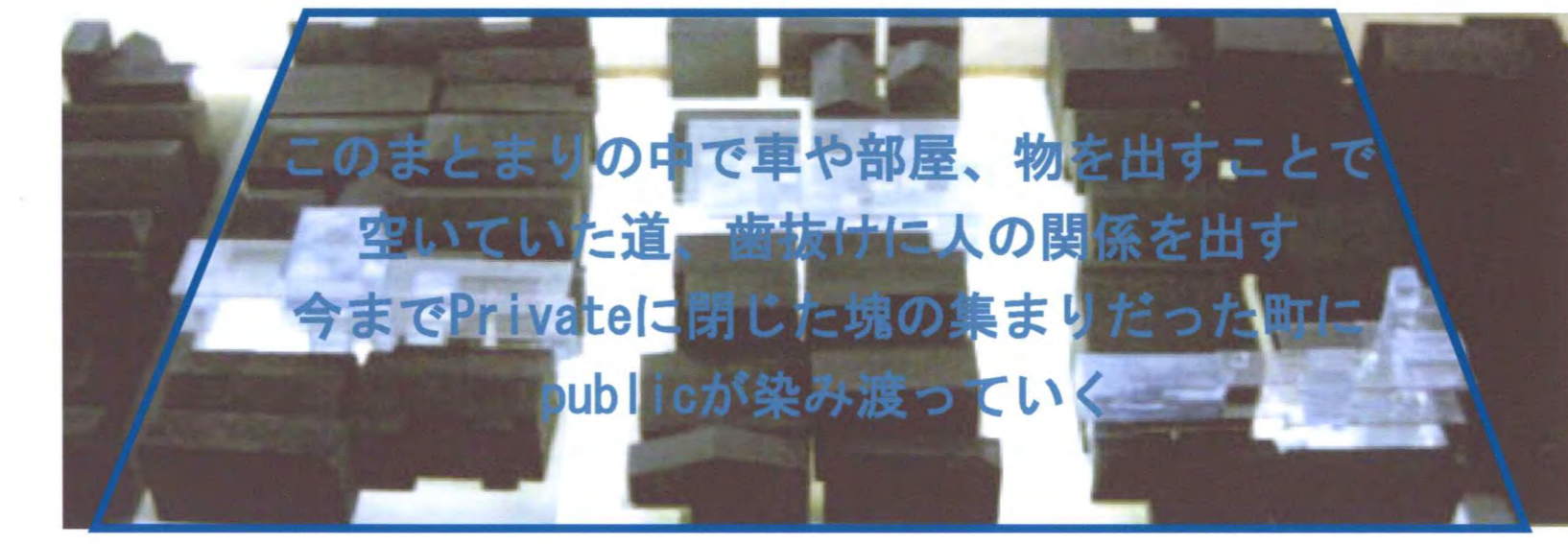


そこで敷地内で抱えていたものを、ある程度近所同士でまとまって今の歯抜けや道に出すことで関係を持てる機会を街に埋め込んでいく。

自分の物はあまり遠くに行ってしまっても困るし、知らない人がたくさんいるところにさらすの困る。徒歩一分圏内(90m) 全員を覚えらるるのは180人位までとしてまとまり方を考える。



スタディーの結果街区三個分までまとまりを作っていくのが最適と判断。



ひとつのまとまりができていく様子を見ていく

**Step 1. 車を出す** 車は生活をからなした大きな課題である。まとまった三街区に車道は通行止めとする。内側にあった車はまとまりの外側に持っていく。緊急車両のみ通れるようにする。そのことで道は地味化していく。掘込んでいた人の活動が少しずつあられるようになっていく。

**Step 2. 夢の部屋を出す** 狭い敷地の中で持つことのできた夢の部屋をまとまりの中心に作る。空いた敷地をまとまりの中心に1分圏内にアクセスができることで人の活動が外に出る。さらに建物ではみんなの夢が溢るよう活動が広がる。

**Step 3. ものを出す** 車と部屋が出たことでできた3つの街区をつなぐパブリックスペースに、今度は個人の敷地内では抱えきれなくなった。又はみんなの前に出したかった「もの」が出てくる。「もの」は今までできていた壁に開け出す。ここに住んでいる人たちならではの個性が出る。

車と夢の部屋が個人の敷地から出ることで3つの街区の内側にそれをつなぐようにパブリックのスペースがはまる

+5000mm 1/400 Site Plan and Building Plan

+2000mm 1/400 Site Plan and Building Plan

そのことで三つまとまった新しい街区ができる。新しい街区は住んでいる人の顔が内側に出る。

+8000mm 1/400 e-e' Section

まとまりは一度にたくさんできるのではなく、時間とともに少しずつできていく。この計画が途中で終わってもそこまでよい計画である。

2003年 2013年 2023年 2023年 ...

夢の部屋は、プライベートなものからパブリックなものまで様々である。これらがうまく組み合わさる様子を見ながら中の街区の建物と併せてみる

+2000mm PLAN 1/100

まずプライベートは路、パブリックは床があれば良いと考え、大きな床を大小のプライベートなボードで、大小の床からパブリックの空間が出てくるように分けていく。

+5000mm PLAN 1/100

さらに路を開き出して様子になりテラスになり、深い入り込みだすことで、パブリックの床の上に個性を帯びていく。

+8000mm PLAN 1/100

路が壁になり、構造になり、それ以外のよけいなものは一つとして空間を作っていく。パブリックとプライベートが最大に混ざりあった状態である。

+8000mm PLAN 1/100

Step 3. ものを出す

車と部屋が出たことでできた3つの街区をつなぐパブリックスペースに、今度は個人の敷地内では抱えきれなくなった。又はみんなの前に出したかった「もの」が出てくる。「もの」は今までできていた壁に開け出す。ここに住んでいる人たちならではの個性が出る。

この埋め込まれたパブリックは後世にも活用されていきここに横ならでの人の関係にしみ出した住宅地ができる。